

The Membership of the National Museum of Modern Art, Kyoto

京都国立近代美術館  
友の会会報

2005  
AUTUMN  
第6号



堂本尚郎作 二元的なアンサンブル 1962-33 1962年 京都国立近代美術館蔵

展覧会の

見どころ

## 堂本尚郎展

9月13日〔火〕—10月23日〔日〕

休館：月曜日

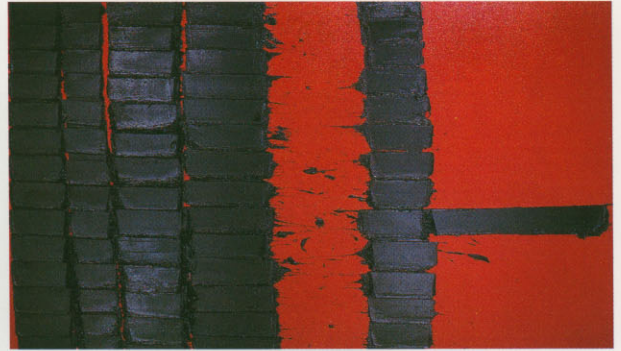
(ただし、9月19日(月・祝)、10月10日(月・祝)は開館し、各翌日は休館)

堂本尚郎は1928年、京都市に生まれました。日本画家堂本印象を伯父に、一族から多くの画家を輩出するという恵まれた環境に育った堂本は京都市立美術専門学校の日本文科に学び、若くして日展で特選を受賞するなど、早くからその才能を開花させ、将来を囑望されます。52年、伯父堂本印象とともにヨーロッパに長期滞在し、イタリアやフランスで多くの名画や新しい表現に出会った体験は堂本を大きな転機をもたらします。

因習的な日本画壇と袂を分かつことを決意した堂本は55年にパリに留学し、日本画から油彩画へと転じ、新しい表現を探求します。当時、パリではアンフォルメルという絵画運動が勃興し、堂本はたちまちその中心的な作家の一人として注目を浴びるにいたりますが、アンフォルメルの代表作家という立場に安住することなく、この後もとどまるところなく作風を変えます。アンフォルメルと訣別した後、堂本は1964年に日本代表としてヴェネツィア・ビエンナーレに出品します。この時に発表された「連続の溶解」シリーズの鎧戸や車の轍を思わせる物質的な表現は新しい抽象表現の可能性を切り開くものとして、アルチュール・レイワ賞を受賞しました。50年代後半以降、堂本はヨーロッパやアメリカの多くの美術館、ギャラリーで個展を開き、国際的な展覧会に出品を重ね、日本人作家としては異例ともいえる世界を舞台にした華々しい活躍を続けます。

さらに66年にニューヨークに長期滞在したことを契機に「連続の溶解」にみられた物質的な構成に代わり、円を反復する夢幻的な構成が登場し、67年の日本への帰還とともに「惑星」、「蝕」そして「連鎖反応」など視覚的で壮麗なイメージを繰り広げる一連の絵画が制作されました。それまでの抑制された色彩に代わる無数の色彩の交響とも呼ぶべきこれらの作品によって作家はまたしても表現を一新します。

堂本の絵画はサンパウロ・ビエンナーレやヴェネツィア・ビエンナーレなどに出品され、いずれの場でも高い評価を得ました。京都、パリ、ニューヨーク、東京と世界を舞台



堂本尚郎 連続の溶解 1964 京都国立近代美術館蔵

に華麗な活動を繰り広げ、世界各地で一流の作家や批評家と華やかな交流を背景に、一新され、深められる絵画。堂本の絵画を通覧する時、人は絵画という表現の可能性を追求する画家の旺盛な創造力に驚きを禁じえません。

大規模な回顧展としてはおよそ20年ぶりとなる今回の展覧会では、堂本の画業をシリーズごとに分類し、「初期日本画」、「アンフォルメル」、「二元的なアンサンブルから連続の溶解へ」、「惑星から蝕へ」、「連鎖反応から臨界へ」そして未発表の最新作からなる「無意識と意識の間」という六つのパートによって紹介します。生誕地京都で初めて開かれるこの回顧展においてはこれまで紹介されることの少なかった初期の日本画に加え、数多くの代表作、そして日本画への回帰を暗示する衝撃的な最新作にいたるおよそ120点の絵画とドローイングを一堂に展示します。京都に生まれ、世界で活躍する一人の画家、日本画から出発し、表現の革新を突き進めた傑出した才能、常に変化することを恐れない若々しい画家の全貌に触れるまたとない機会となるでしょう。

尾崎信一郎(京都国立近代美術館主任研究官)

次回展予告

特別展

須田国太郎展

11月1日(火)—12月18日(日)月曜日休館

# 美 心 短 信

## 美術館とコンサート

### — 京都市立芸術大学生を迎えて —

去る7月31日の夕刻、友の会では初めての試みとして、京都市立芸術大学との共催による「サマーナイト・コンサート」を、1階のロビーと展示フロアで開きました。初めての試みでもあり、いろいろ細部に不手際も生じ、折角、夏の一夕を愉しもうと来館された友の会会員の方々や一般の方々に、不愉快の想いを残したことと思います。ただ、この共催の催しは続けることが、最も肝腎かと思しますので、皆様のご叱責、ご助言、ご協力を多く賜りたいと存じます。

美術館でコンサートを開くということ自体は、決して目新しいことではなく、日本各地の美術館、博物館でもすでに行われています。ヨーロッパの王宮での、18、19世紀頃のサロン演奏を疑似体験できるような、そんな雰囲気为好評なのかも知れません。先輩格は、やはりアメリカの美術館のようです。社会教育を重視する国の方針とも相俟って、積極的に、多目的に美術館、博物館を活用しようとする姿勢は、すでに1世紀に近い伝統があります。日本では、ようやく、1980年代以降に試みられるようになったことではないでしょうか。西洋音楽の伝統からいえば、当然のことですが、ニューヨークにしろ、パリにしろ、美術館の前の広場で、大道芸人やアマチュアの若い人らが、堂々とクラシックを演奏している光景を目撃しますと、文化をゆったりと受容する人々の余裕、文化へのプライドのようなものが見えて、正直、うらやましいような気持ちを味わいます。

しかし、文化伝統では世界のどの都市にも遜色を取らない京都です。たとえ形が伝統的なものでなくても、むしろそれに激しく反撥するようなものでも、あるいは海外の文化であっても、古代から京都はそれを受容し、消化して、自らのものを創造してきた都市です。その特質を生かして、文化的に幅広い京都を創るための一環となる、そんな夢を、このミュージアム・コンサートに託しました。



美術館正面でのプレ・コンサート



展示ロビーでのオーケストラ演奏

プログラムの中に、ムスログスキー作曲/ラベル編曲の〈展覧会の絵〉の抜粋が入っていたのが、微笑を誘いましたが、何よりも、芸大生の半端でない力量、演奏の力強さが印象的でした。何かにつけ「本物の」というのが昨今の流行ですが、実際に「本物」に出会うことはなかなか容易ではありません。京都市立芸術大学の若い学生たちは、本物を目指して研鑽を重ねている人々です。その「さわらび」(注)達に演奏(あるいは研究活動といってもよいでしょう)の機会を提供し、同時に、友の会の会員や、ひろく一般の方々がその演奏に耳を傾け、時には厳しい批評者になって下されば、共催は大きな稔りを得ることができるでしょう。

(友の会事務局長)

(注)「さわらび」とは、早春に芽吹いてくるワラビ(蕨)のこと。転じて、未来ある若い人々の意味にも。「石激る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも」(志貴皇子・『万葉集巻八』)

## ポール・クローデル展

10月25日(月)―12月4日(月)  
(月曜日休館)

20世紀のフランスを代表する詩人の一人であるポール・クローデル(1868―1955)は大正末から昭和初頭にあたる1921年から27年まで、駐日フランス大使として東京に赴任しました。その間、彼は京都や奈良をしばしば訪れ、京都の日本画家、竹内栖鳳、山元春挙、富田溪仙らと親交を結びました。クローデルの東京在任中の1922年4月、パリで日仏交換展が開かれ、富田溪仙のほか、福田平八郎、堂本印象、石崎光瑠、竹内栖鳳らが出品、栖鳳の「蘇州の雨」がパリ・リュクサンブール美術館に寄贈されました。また、1929年6月にも、パリ日本美術展が開催され、橋本関雪「瀟湘」、土田麦僊「舞妓習作」などが、寄贈されました。

クローデルは、仏文学者山内義雄を介して、溪仙に詩集『江

戸城十二章』のための装画、『聖ジュスヴィエーヴ』のための挿絵を依頼しましたが、お互いに芸術的に意気投合した両人は、『四風帖』を合作しました。

このように、日本滞在中のクローデルは、少なからず日本の芸術や文化、京都・奈良を中心とした古い文化の薫りに魅惑されました。また一方、クローデルが自ら紹介した象徴詩の世界に、溪仙らは深い影響を受け、これを契機に、作風に新たな展開を示しました。

今年はクローデルの没後50年にあたり、フランス国内では記念行事が行われますが、氏と深い関わりがあった日本においてもクローデルを記念し、さまざまな催しが開かれ、京都でも、当館において、関わりのあった京都画壇の画家たちやクローデルの詩画集の展示が行われ、11月5日にはシンポジウムが予定されています。(文責・加藤)

## 友の会の催し

### 芸大生によるオータム・ナイト コンサート

友の会では、夏につづいて第2回目の催しとして、京都市立芸術大学と共催で、同音楽学部に通学学生によるコンサートを開くことになりました。当館1階ロビーで、展覧会終了後の夕刻のひとつときを愉しんでいただきたいと思います。日時は**10月15日(土)午後6時から**、次の曲目を演奏する予定です。

モーツァルト：弦楽四重奏曲 第17番 変ロ長調「狩」K.458  
W.A.Mozart: Streichquartett No.17 B-dur "Jagd" K.458

モーツァルト：フルート四重奏曲 第3番 ハ長調 K.171  
W.A.Mozart: Quartett für Flöte und Streichtrio No.3 C-dur K.171(285b)

ドヴォルジャーク：弦楽四重奏曲 第12番 ヘ長調「アメリカ」作品96  
Dovřák: Smyčcový Kvartet No.12 F-dur "American" op.96

※都合により内容に変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。

定員は100名。入場は無料です。雨天でも行います。  
なお、10月以降の予定は次の通りです。

平成17年(2005)12月17日(土)午後6時開演  
芸大生によるクリスマスコンサート

ヴィヴァルディー：合奏協奏曲集「四季」より「冬」「春」  
バッハ：クリスマス・オラトリオより  
バッハ、グノー、シューベルトほか：「アヴェ・マリア」

定員は100名。入場は無料です。雨天でも行います。  
友の会会員の方は席を予約できます。ハガキに住所、氏名、お電話番号、同伴者数を書いて、開催日の3日前までに友の会事務局(京都国立近代美術館内)まで。  
但し、御予約されていても、当日、午後6時の開演に遅刻された場合は、予約が取り消されますので、ご注意ください。

- 開館時間  
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
  - 夜間開館  
4月15日(金)―9月2日(金)までの企画展開催中の金曜日  
午前9時30分～午後8時まで(入館は午後7時30分まで)
  - 休館日  
毎週月曜日(月曜日が休日に当たる場合は、翌日が休館)、  
及び年末年始  
(開館時間、休館日は臨時に変更する場合があります)
- ※お車で越しの場合 岡崎公園駐車場(地下)をご利用の有料入館者は、駐車場の割引(1台1名)を受けられますので、駐車券をお持ちの上お越しください。



独立行政法人国立美術館  
**京都国立近代美術館**

The National Museum of Modern Art, Kyoto  
〒606-8344 京都市左京区岡崎岡勝寺町  
TEL. 075-761-4111

テレフォンサービス 075-761-9900  
ホームページ <http://www.momak.go.jp>